

## はじめに

三角町のお世話で、よい実習地を都合していただいた。また土地の所有者である吉井テイ氏も、そこが蜜柑畑であるにもかかわらず掘鑿を許して下さった。大勢が動き回るので、土地などを踏み荒してしまうけれど、御近所の皆様も寛大に見逃して下さった。御厚情に対し、心からお礼申しあげたい。

実習調査の度にこのような御厚情をいただくのだが、どうも当方の様子が思わしくない。学生たちの実習状況が — ひとりひとりについては別の評価があるが — 全体として甚だ低調である。

今さら実習の意義を説くまでもないが、研究の基本的な技術を習得するための訓練であって、これを経なければ考古学のコースを専攻したことにはならないのである。フィールドワークにはじまり、デスクワークを経て、最後に報告文の練習をするのに一年近くを要してしまった。

実は此のひとつ前の実習報告書は、発送可能な態勢をとるまでに、何と16ヶ月を要したのである。その間、あきらめもせずに仕事を続けたのだから、驚くほどの意志の強さだとほめるべきなのであろうか。まとめ役の米倉君の御苦勞、察するにあまりがある。

1984年2月4日

白木原和美

## 例 言

- 本書は1983年春に発掘調査を行った、熊本県宇土郡三角町文蔵貝塚の調査報告である。
- 本書の編集には主として米倉秀紀、吉武学が当り、執筆者は各文末に記名して示した。
- 出土土器については西健一郎氏の御教示を得た。
- 出土自然遺物については木下尚子氏の御教示を得た。
- 調査参加者及び協力者は下記のとおりである。

### 参加者

白木原和美、甲元眞之、米倉秀紀、吉武 学、馬原和広、古賀 朗、坂口隆裕、松原  
明美、明瀬慎吾、茂山宏美、平 俊隆、友口恵子、林田奈生子、藤崎伸子、三山 茂、  
吉武牧子、吉永義治

### 協力者

三角町、三角町教育委員会、吉井テイ、上本洋一、上本庄区

## 本 文 目 次

一	位置と環境	1
二	調査の目的と経過	3
三	第1貝塚	5
	(1)概要	5
	(2)層序	5
	(3)出土遺物	7
四	第2・3・4貝塚	13
	(1)第2貝塚	13
	(2)第3貝塚	14
	(3)第4貝塚	14
五	住居址	16
	(1)概要	16
	(2)層序	16
	(3)出土遺物	19
六	まとめ	21